

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12138

研究課題名（和文）ICTを活用した実習指導者のためのネットワークシステム構築に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Research for the Construction of a Network System for Practice Instructors Utilizing ICT

研究代表者

佐々木 史乃（SASAKI, SHINO）

順天堂大学・保健看護学部・非常勤講師

研究者番号：20596332

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ICTを活用した実習指導者の自己成長を促進するネットワークシステム構築のために、実習指導者の職務キャリアと実習指導者間のネットワーク構築に向けたニーズを明らかにすることである。

107名からのアンケートにより、2つの結論が導き出された。結論1：看護職としての経験年数と実習指導の経験を有した実習指導者は、職務キャリアが高かった。これまでの経験を意味づけることによって、さらなる職務キャリアの向上が期待できる。結論2：実習指導者は、所属施設を越えた実習指導者同士の情報共有の場を臨んでおり、地域包括ケアシステムを捉えた指導方法の検討や指導者としての自己研鑽の場として期待していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

昨今、地域包括ケアシステムの構築により看護専門職の活躍の場も多岐に渡っている。看護基礎教育においても実習の在り方も大きな変化を迎えている。

以上のような現状の中で、看護学生の実習に携わる実習指導者も、指導の在り方や方法、近年の学生とのかかわり方など悩みも多い。そこで、多様な働き方やリアルタイムでの問題解決に対応できるICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用したネットワークシステムの構築により、施設を越えた実習指導者の支援が可能となり、連携の強化や実習指導者同士の自己研鑽の場として意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to identify the job careers of practice supervisors and their needs for networking among practice supervisors in order to construct a network system that promotes the personal growth of practice supervisors using ICT.

Two conclusions were drawn from the questionnaire from 107 respondents. Conclusion 1: Practice supervisors with more years of nursing experience and practice teaching experience had a higher professional career. Further improvement in professional career can be expected by making sense of past experiences. Conclusion 2: Practice supervisors were looking forward to a place for information sharing among practice supervisors beyond the facilities they belong to, and they expected a place to discuss teaching methods that take into account the community-based comprehensive care system and for self-improvement as a supervisor.

研究分野：看護教育

キーワード：実習指導者 職務キャリア 看護教育 キャリア発達

### 1. 研究開始当初の背景

看護基礎教育における臨地実習の場面で、看護学生に直接指導する看護師(実習指導者)の役割は大きい。しかし、その役割を遂行するうえで、実際の指導場面において指導方法や学生との関わり等様々な悩みや問題を抱え解決に至らずストレスを増大させている。さらに、バーンアウトにも繋がることも指摘されている。現状では、実習指導者の支援や教育方法は、実習施設独自の研修会や実習指導者の自主努力に頼っている場合が多く、組織的かつ継続的に支援する方法は確立されていない。そこで本研究では、成人学習者の特徴を踏まえ、自己のペースで主体的にリアルタイムかつ自由な時間や場所で学習ができ、ひとりひとりの成人学習者が持っている豊かな経験を交流しあえ、自己成長を促進できる場を ICT の活用によって実現させたいと考えている。

### 2. 研究の目的

本研究は、臨地実習指導者のキャリアを促進するネットワークシステムのニーズに関する実態調査であり、臨地実習指導者の職務キャリアを明らかにし、連携を強化できるようなネットワーク構築に向けたニーズを明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) 研究デザイン：自記式質問紙調査による量的記述的デザイン

(2) 研究期間：2019年4月1日～2020年3月31日

(3) データ収集期間：倫理審査承認後～2019年10月1日

(4) 研究の対象：A大学の実習を受け入れている施設で、実習指導者の役割を担っている看護師100名(役職、実習施設、経験年数は問わない)

(5) 調査内容

調査票：職務キャリア尺度 43項目

調査票：臨地実習指導者のキャリアを促進するネットワークシステムのニーズに関する実態調査票 21項目

(6) データ収集方法：自記式質問紙(無記名) 郵送法による横断研究

(7) データ分析方法：得られたデータの記述統計量を算出し、2変量解析、多変量解析を行う。

(8) 倫理的配慮：研究者所属施設の研究倫理審査委員会にて承認を得て実施した。

### 4. 研究成果

質問は、84施設292名に配布し119名から回収した(回収率40.8%)。そのうち有効回答数は、108名(有効回答率90.8%)であった。解析対象者は職務キャリア尺度の全質問(43項目)に回答した107名とした。

#### (1) 対象者の属性

研究協力が得られた実習指導者108名の背景をみると、年齢の平均は、 $42.9 \pm 9.75$ 歳であり、内訳は、看護師 $42.2 \pm 9.1$ 歳、次いで保健師の $44.9 \pm 9.8$ 歳、助産師は $47.3 \pm 17.3$ 歳という結果であった。性別は男性9名(8.3%)、女性98名(90.7%)であった。看護職の経験年数は、平均 $17.3 \pm 9.77$ 年、実習指導者の経験年数は、 $5.4 \pm 5.24$ 年であり、1年以上5年未満が64.8%を占め、5年以上～10年未満が16.7%であった。看護教育学歴は、専門学校が65名(58.6%)と最も多く、次いで4年制大学20名(18.0%)、短期大学12名(10.8%)、5年一貫が5名(4.5%)であった。現在勤務している職種は、看護師87名(78.4%)が最も多く、次いで保健師14名(12.6%)、助産師6名(5.4%)であった。現在保有している資格または認定は、介護支援専門員が25名(23%)、学会認定の資格が15名(14.0%)、認定看護師6名(5.0%)、専門看護師1名(1.0%)、その他の資格は18名(16.0%)であり、資格なしが44名(40.0%)であった。現在の就業場所は、病院(病棟)が58名(52.3%)、訪問看護ステーション19名(17.1%)、市町村が12名(10.8%)、施設7名(6.3%)、病院(入退院支援関連部署)が3名(2.7%)であった。勤務形態では、正社員が100名(90.1%)と最も多く、パートアルバイト6名(5.4%)、短時間正社員2名(1.8%)の順であった。また、「役職あり」は46名(41.4%)、「役職なし」は61名(55.0%)であった。新人指導の経験は、92名(82.9%)が「ある」と回答し、16名(14.4%)が「なし」と回答した。

#### (2) ネットワークシステムのニーズ調査結果

仕事のことで最も相談する相手

仕事のことで最も相談する相手として、同じ職場の上司が56名(50.5%)と最も多く、次いで、同じ職場の先輩25名(22.5%)、同じ職場の同期入職者が11名(9.9%)、同じ職場の後輩が5名(4.5%)、他の職場の方が4名(3.6%)、他の職種の方が3名(2.7%)、その他が4名(3.6%)であった。

#### 所属場所以外で実習指導者同士が情報を共有する場

所属場所以外で実習指導者同士が情報を共有する場は、56名(50.5%)が「なし」と回答し、52名(46.8%)が「あり」と回答している。自由記載の54ワードをみると、所属場所以外で、実習指導者同士が情報を共有する場として、院内24ワード、教育機関と実習施設間22ワード、組織外6ワード、附属病院間が2ワードであった。内訳をみると、院内での委員会が最も多く、次いで教育機関主催の実習指導者研修会、院内での実習指導者研修会、定期的な教育機関との連携会議、実習前・中・後の担当教員との打ち合わせであった。

#### 所属場所以外で実習指導者同士が情報を共有する場の必要性

所属する場所以外で実習指導者同士が情報を共有する場の必要性については、92名(82.9%)が「必要あり」と回答し、12名(10.8%)は「必要なし」と回答した。さらに、「必要あり」の理由として、87名からの自由記載を類似性・共通性を内容別に分類し、カテゴリー名を命名した。その結果、【悩みを共有し、解決への糸口を見つける】【実習指導の質を高める】【自施設での実習指導の在り方を考える】【現在の教育方法や学生のレディネスを知る】の4つのカテゴリーが抽出された。一方で、「必要なし」と回答した7記述については、【共有したいことがわからない】【指導の混乱をきたす】【時間がない】【トップマネージャレベルの共有が大切】のカテゴリーに分類した。

#### 身近な実習指導者のネットワークについて

身近な実習指導者のネットワークについては、94名(84.7%)が「ない」、13名(11.7%)が「あり」と回答している。具体的なネットワークの内容について13名から回答が得られた。所属場所内でのネットワークが7ワード、所属場所以外のネットワークが4ワード、教育機関と実習施設間でのネットワークが2ワードであった。

#### 実習指導者のネットワークの必要性

実習指導者のネットワークの必要性について、「必要である」と回答したのは82名(73.9%)で、22名(19.8%)が「必要はない」と回答している。「必要である」と回答した71ワードの自由記載を分類し、【実習指導の質向上】【実習指導者としての資質向上】【リフレクションの機会】【自組織を客観視する機会】の4カテゴリーが抽出された。一方で、「必要はない」と回答した16ワードを分類すると、【業務の負担になる】【教員からの情報提供で十分】【情報共有は必要だがネットワークは不要】【イメージがつかない】というカテゴリーが抽出された。

#### 今の自分自身のキャリアに影響を与えたきっかけや経験、契機について

自由記載による68の記述を内容別に分類し、内容を示すカテゴリーを命名した。その結果、【自分自身の看護体験】【役割に付随する経験】【組織内外の研修会や自己研鑽】【人とのかかわり】【これまでの生活環境や職場環境】の5カテゴリーが抽出された。

#### (3) 職務キャリア尺度と属性の関係

看護職としての経験年数、実習指導者としての経験年数ともに職務キャリアの総スコアと有意な正の相関が認められた。看護職経験年数、実習指導者としての経験年数が長い実習指導者ほど職務キャリアが高かった。また、「自己能力の開発」の因子との相関関係が0.368と最も高く強い相関を認めた(表8)。さらに、職種間の「多様な経験の蓄積」にも有意差が認められ、スコアの平均値は助産師が最も高く、保健師が最も低かった。

#### (4) 職務キャリア尺度総スコアと因子別スコアとの比較

職務キャリア尺度の因子別の平均値をみると、総スコア3.41を基準とし、「質の高い看護の実践と追求」が3.88と最も高く、「自己能力の開発」が2.48と最も低かった。因子別スコアは、質の高い看護の実践と追求 > 対人関係の形成と調整 > 多様な経験の蓄積 > 自己能力の開発の順であった。

#### (5) 結論

看護専門職としての経験年数と実習指導の経験を有した実習指導者は、職務キャリアが高かった。これらの経験を意味づけることによって、さらなる職務キャリアの向上が期待できる。

実習指導者は、所属施設を越えた実習指導者同士の情報共有の場を臨んでおり、地域包括ケアシステムを捉えた指導方法の検討や指導者としての自己研鑽の場として期待している。

実習指導者の職務キャリア尺度の因子では、「質の高い看護の実践と追求」「対人関係の形成と調整」に関する能力が高かった。しかしながら、「自己能力の開発」に関する項目が低い傾向にあったが、組織を越えたネットワークの構築により、「自己能力の開発」が促進され実習指導の新たな知見が得られる可能性が示唆された。

#### (6) 研究成果の国内外における位置づけと今後の展望

看護基礎教育における臨地実習は、座学での学びを踏まえた看護実践能力の定着化、チームの一員としての自覚が焦点となる中で、実習施設は行政、企業、病院、訪問看護ステーション等多岐にわたる。そこで、基礎看護教育の背景を鑑みて、臨地で看護学生を支援する実習指導者は施設だけでなく施設を越えて連携を強化する必要があると考えた。

本研究で明らかとなった所属場所以外での情報交換の場やネットワークシステムを構築することは、地域包括ケアシステムの中での実習指導の在り方や連携、具体的方法を模索する一助に繋がる可能性が示唆された。実習指導者の支援は、「自己能力の開発」を視野に入れ、多様な働き方やリアルタイムでの問題解決に対応できる ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) を活用したネットワークシステムの構築により、実習指導者のみならず、次世代を担う看護職への質の高い指導が可能となり、後輩育成においても意義があると考ええる。よって、今後の課題は実務レベルで活用ができるネットワークシステムの実現化である。

#### (7) 文献

文部科学省 (2017) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標の策定について, 2019年3月3日アクセス.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm),

石井京子, 藤原千恵子, 星和美他 (2005): 看護師の職務キャリア尺度の作成と信頼性および妥当性の検討, 日本看護研究学会雑誌, 28 ( 2 ), 21 - 30.

大西淳子, 安藤瑞穂, 平田美和, 川口奈美, 宮本千津子 (2019): 実習指導者講習会における地域包括ケアシステムに関する授業内容の理解と課題, 東京医療保健大学紀要. 14 ( 1 ), 13 - 19.

森洋子 (2020): 在宅看護における連携に関する文献的検討, 経営と情報, 32 ( 2 ), 13 - 24.

水野暢子, 三上れつ (2000): 臨床看護婦のキャリア発達過程に関する研究, 日看護会誌, 14 ( 1 ), 14 - 22.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Shino, S Junko, I Yuko, F   |
| 2. 発表標題<br>A Status Survey on the Need for Network Systems That Promote Clinical Practice Instructor Careers |
| 3. 学会等名<br>2020台湾国際看護会議 (TWINC 2020) (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Shino, S Junko, I Yuko, F Machiko, H  |
| 2. 発表標題<br>Factors influencing the improvement of clinical nurses - Focusing on the experience of teaching in practical training - |
| 3. 学会等名<br>日中看護国際シンポジウム (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>佐々木史乃                                 |
| 2. 発表標題<br>臨床看護師としての成長に影響を及ぼす要因～実習指導者の体験に焦点をあてて～ |
| 3. 学会等名<br>日本看護研究学会                              |
| 4. 発表年<br>2018年                                  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>佐々木史乃   |
| 2. 発表標題<br>臨床看護師としての成長に影響を及ぼす要因～実習指導者の役割経験のある臨床看護師に焦点を当てて～ |
| 3. 学会等名<br>日本看護研究学会  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|           | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                       | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                 | 備考 |
|-----------|---|---------------------------------------|----|
| 研究<br>分担者 | 石塚 淳子<br><br>(ISHIZUKA JUNKO)<br><br>(50329520) | 順天堂大学・保健看護学部・教授<br><br><br>(32620)    |    |
| 研究<br>分担者 | 藤尾 祐子<br><br>(FUJIO YUKO)<br><br>(60637106)     | 順天堂大学・保健看護学部・先任准教授<br><br><br>(32620) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|